

2025

同友しずおか6



VOL.559

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」

私の逸品

臼幸産業(株)

人と技術をつなぐ、未来への
架け橋 ~地域とともに
歩む建設業~



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1079名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
ないとう 内藤 祐也	快晴自動車(株) 自動車整備、保険、レンタカー、レッカー、自動車販売	静岡	大滝 一成
おおはし 大橋 ともあき 知晃	Archi Engi 建築一式工事、施工管理補助、コンサルティング	中遠	生倉 滋人

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



人と技術をつなぐ、未来への 架け橋 ～地域とともに歩む建設業～

臼幸産業(株) (御殿場支部)

代表取締役社長 臼井 康晴氏



臼井 康晴氏

歴史を受け継ぐ覚悟と、挑む決意

静岡県小山町に本社を置く臼幸産業(株)は、1907年の創業以来、100年以上にわたり地域に根ざした建設会社として歩んできました。9代目代表取締役社長の臼井康晴氏は、当初、会社を継ぐ予定はなく、他企業で工場設計を担う技術者としてキャリアを重ねていました。しかし2016年、一族から後継の相談を受けたことをきっかけに、「会社の歴史を守ることも、地場企業として成長させることで、さらなる地域貢献ができる」という使命感が芽生え、2018年に地元へ戻る決意を固めます。

「どこ」に行っても通用する人材」を育てるといふ会社の文化や価値観を大切に、社員一人ひとりの成長と会社の発展を両立させる経営哲学は、同社の大きな特徴です。

人が育つ会社が、地域を育てる

同社にとつての「逸品」は、何と言つても人材育成です。資格取得率94%という驚異的な数字が社員の学びへの意欲の高さを物語っています。「若手とベテランの価値観のギャップを埋めたい」という思いから、臼井氏は全社員と個別面談を行い、会社の歴史や方向性を丁寧に共有しています。また、資格取得者への表彰制度をはじめ、社員旅行やスポーツ施設の完備など、社員のモチベーション向上に努めています。

施工技術力の強化にも積極的に取り組んでおり、毎年、静岡県建設業協会の技術コンテストに土木・建築部門で応募しています。富士山須走口インフォメーションセンターの建設では、同一プロジェクトで2つの銀賞を受賞するなど、高い技術力を証明してきました。また、木造・鉄骨・鉄筋コンクリートの3構造に対応できる高い技術力は、建設業界でも稀有な強みです。さらに、富士山五合目での工事や土砂崩れ対策など、地域の公共インフラや防災にも深く



富士山須走口インフォメーションセンター

関わり、地域に欠かせない存在となつていきます。このような技術的多様性と地域貢献は、建設会社の枠を超えた、地域に根ざす企業としての真価を示しています。

技術、仕組み、企業文化を磨き、次の100年へ

臼井氏は現在、同友会の学びを通じて、経営理念を刷新し、200年企業を見据えた経営に切り組んでいます。「専門性の高い人材を育てるとともに、技術を属人的にせず、組織として継承していきたい」という思いから、ICT施工への投資、育成マップの作成、社内の建設技術のデータベース化などデジタルトランスフォーメーション(DX)による体系的な人材育成・技術継承に取り組んでいます。

「仕事の出来栄を安定させ、お客様にご満足いただくことを最大の目標とし、技術と人、そして地域をつなぐ架け橋となる



足柄駅 (隈研吾氏設計)

臼幸産業(株)

〒410-1304 駿東郡小山町藤曲109-1

TEL : 0550-76-1200

URL : <https://usuko.co.jp/>

創業 1907年

社員数 137名

入会年月 2019年10月

事業内容 総合建設業 (建築・開発・土木・住宅)

取材・記事：片野貴一郎氏
(株)モスク・クリエイション・御殿場支部
取材：土屋信喜氏
(E)ストラベル(株)・御殿場支部

ことを目指しています。会社の歴史と文化を大切にしながら、新しい企業の価値を創造していくこと。それが私の使命だと思つていきます」と語る臼井氏の言葉どおり、臼幸産業は100年の歴史を力に、未来へ向けて確かな一歩を踏み出しています。



足柄IC近隣町道新設工事

第52回県定時総会

2025年度スローガン

「仲間を増やし、学びの場としての価値を高め、常に企業づくり・地域づくりの先頭に立つ同友会へ、高い目標と強い意志をもって脱皮しよう！」

5月12日(月) グランディエールブuketーカイ

第52回静岡同友会県定時総会が5月12日(月)に開催され、来賓・県内外の会員あわせて153名が参加しました。昨年度、50周年記念事業のNEXT50フォーラムを開催し、次の50年にむけた最初の県定時総会となった本総会。冒頭、主催者を代表して井上代表理事より、「昨年は51回目の県定時総会を開催し、11月には50周年記念事業を40名を越えるご来賓をむかえ全体で400名以上の参加のもと開催することができた。静岡同友会にとって益々の飛躍の機会になったと感じる。本日の総会を、静岡同友会のさらなる繁栄の機会とする」とも



財務省東海財務局
静岡財務事務所
山口所長



厚生労働省静岡労働局
國分局長



静岡県経済産業部
山下商工業局長

業を40名を越えるご来賓をむかえ全体で400名以上の参加のもと開催することができた。静岡同友会にとって益々の飛躍の機会になったと感じる。本日の総会を、静岡同友会のさらなる繁栄の機会とする」とも



新理事紹介

に、ぜひ会員皆さまの益々の発展に繋げる機会にしていきたいと思います」と挨拶しました。続いてご来賓の山下啓道氏(静岡県経済産業部商工業局長)、國分一行氏(静岡労働局長)、山口恒氏(財務省東海財務局静岡財務所長)よりご祝辞を賜りました。総会議事では、第1号から第5号議案ま



増強チャンピオンに輝いた4名にトロフィーを授与

ですべて承認されました。本年度は新任理事12名を含む34名の県理事が就任。簗代表理事より総会議案書をもとに2025年度スローガンと重点方針を伝えました。

総会議事に続き、仲間づくり功労者表彰を実施。2024年度は県下で77名の新たな仲間を迎えました。4名の新たな仲間入会に繋げ、増強チャンピオンに輝いた野村勝也氏(株)野村商店・伊東支部長)、増田隼人氏(株)集客デザイン研究所・三島支部長)、山崎かおり氏(株)山崎製作所・副代表理事)、江間省豪氏(データマイン(株)・県組織増強委員長)に、簗代表理事より感謝状とトロフィーが授与されました。表彰の後、功労者の4名より2025年度の支部づくりや仲間づくりへの意気込みを伝えました。

総会・記念講演終了後には懇親会を開催。冒頭、ご来賓の山本義彦氏(静岡大学名誉



会長を退任された遠藤氏(右)と井上代表理事(左)

教授・静岡同友会顧問)からご祝辞を賜りました。続いて、10年に亘り会長職を歴任され、2024年度をもって退任された遠藤一秀氏よりあいさつ。「この間、素晴らしい経営者として成長し、会社は地域から優良会社だと言われる会社に成長できました。まさに同友会運動と自社経営が不離一体の活動を行ってきました。皆さん、ぜひ率先して同友会の役員を引き受け、同友会の発展と自社の発展に繋げて頂きたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。その後、井上代表理事より感謝の想いを込めた花束を贈呈しました。

「学びの場としての価値を高め、常に企業づくり・地域づくりの先頭に立つ同友会」にむけて明るく活気あるスタートを切った総会となりました。

〈県定時総会記念講演〉

「理念？そんなものねえよ！」からスタートした価値観共有経営!!

〈講師〉

本多 修氏

(株)東邦プラン 会長

(神奈川県同友会 代表理事)

設立 立…1989年

社員数…32名

事業内容…折込チラシ等の製作・印刷・配布企画、パンフレット・DM・雑誌等の製作・印刷、ホームページの企画・製作

起業するも仕事なく、アルバイトと本業を並走

「今日からおまえは社長だ！」父が作った会社でいきなり社長になった本多氏。印刷会社への出向という形で友人と2人で経営していましたが、バブルが崩壊し、生計を立てるのも厳しい状況に陥ります。経営



本多 修氏

をしながら夜間の警備員アルバイトを掛け持ちし、自社の売上が月20万円を超えた頃、本業に専念すること

を決意。その後、事業を拡大し、売上11億円、社員は47人に成長しました。しかし、当時は理念も就業規則もなく、社内は荒れていたと当時を振り返ります。

リーマンショック期に同友会に入会

リーマンショックに直面し、売上は半減、取引先30社が倒産しました。「もう会社をやめてしまおうか」と思いながらも「創業時のことを考えるとまだ出来ることはある」と感じていた本多氏。そんな中、ISOを取得することに決め、社員がコンサルタントと打合せをする中で言われた言葉が「経営理念はありますか？」でした。社員に聞かれた本多氏は「理念？そんなものねえよ！」と突き返しましたが、これが経営理念について考えるきっかけになりました。

幹部社員とともに経営指針の浸透へ

そんな折に同友会を紹介され入会し、すぐに経営指針を創る会に参加。「何のために経営していますか？」という自身では考えたことのなかった問いに向き合い、お客

様から感謝されることが嬉しかった」という仕事の原点に辿り着き、経営理念に落とし込みます。さらに「感謝すること」「勉強熱心であること」「素直であること」「ポジティブであること」の4つを社員の条件として決めました。しかし、経営指針を社内でも発表した後も会社は一向に変わりませんでした。当時の代表理事に相談し、誘われた経営指針発表会で目の当たりにしたのは社員が主体的に関わり、発表する姿でした。代表理事からは「ここまで到達するのに12年かかった。まず社内に分かる味方をつくるのが大事」と言われ、同友会の幹部社員研修に課長を参加させるなど、社員の経営指針への理解を深めていきました。

組織の成功循環フロー

経営指針が徐々に浸透する中、コンサルタントから組織の成功循環フローを学びました。それは関係の質からスタートし、思考の質↓行動の質↓結果の質の順に良くなるというものでした。これまで結果から求めてしまっていたことに気づき、社員がお互いに10分間の自己紹介をし合うオフサイトミーティングや、簡単なゲームを通してお互いを知り合う朝礼ワークなど、関係の質を高める新たな取り組みを行い、社員との会話の内容も少しずつ変えていきました。すると関係性が徐々に変化し、話しやすい雰囲気が出ていきました。

社員がいっきと働ける会社に

あるとき写真が得意な3年目の社員から、これまで外注していた写真撮影の業務を任せてもらえないかと打診があり、挑戦させることにしました。そこで実績を作ったことで、新たな事業の柱にまで発展。社員同士の関係の質の向上が、若手社員が活躍する社風に繋がっています。

男性が大部分を占めていた会社も現在では半分が女性、平均年齢28歳と若い社員が多い会社へと変化してきました。「今」を知る若い社員を押しさえつけない環境を作ることがこれからの経営にとって「大事」と最後にまとめました。



2025年度 新理事紹介

県定時総会にて、12名が新たに理事に就任しました。副代表理事・支部・委員会・部会の新任理事の皆さんをご紹介します！



広報情報化委員長
中村 秀和氏
(中村醤油株式会社)



副代表理事
齊藤 寧氏
(株式会社齋藤組)



副代表理事
前原 毅氏
(ダイヤプラス株式会社)



女性部会長
深沢 麻衣子氏
(有限会社深沢製帆店)



経営労働委員長
宮田 博文氏
(有限会社ミヤタ印刷)



例会企画委員長
西躰 亮貴氏
(株式会社駿東ドリームビレッジ)



富士宮支部長
鈴木 高史氏
(有限会社鈴木製作所)



御殿場支部長
大川 隆久氏
(フエタ工業有限会社)



青年部会長
関 那積氏
(株式会社中部特機設備)



プロジェクト担当理事
小野寺 敦嗣氏
(富士設計株式会社)



榛南支部長
古川 徹氏
(株式会社フルカワ)



静岡支部長
久高 洋司氏
(株式会社高栄塗装)

新任副代表理事よりメッセージ

このたび副代表理事を拝命し、大きな責任を感じております。厳しさを増す時代の中で、中小企業は変化への対応力が求められていくと痛感しています。同友会は、地域と企業をつなぐ学びと実践の場です。会員の皆さんと力を合わせ、知恵とつながりを育み、地域に根ざした企業づくりに微力ながら貢献してまいります。よろしくお願いたします。

前原 毅氏（副代表理事・ダイヤプラス㈱）

このたび副代表理事という大役を拝命し自分でも「え？私か？」と驚きましたが、「この世に偶然はない。すべて必然」という言葉に背中を押され腹をくくりました。

私はこれまでキャリア教育や仕事体験を通じて未来を担う次世代が社会とつながるきっかけづくりに大きく力を注いできました。今後は他支部と連携しながら、地域を越えた実践交流をさらに深め、例会参加や会社見学、時には盃を交わしながら経営のヒントや経営者の使命、ロマンを語り合いたいです。他支部の学びに参加した際は、

総会議案書に掲載されている2025年度の理事一覧はこちらのQRコードからご覧いただけます。



副代表理事を退任された鈴木氏（左）と青山氏（右）

どうか優しく温かく接してください。真面目に楽しく、地域の未来に貢献できるように頑張ります!!

齊藤 寧氏（副代表理事・㈱齋藤組）

退任副代表理事より笑顔でエール!

総会の懇談会にて、2024年度をもって副代表理事を退任された青山達弘氏（㈱青山建材工業）と鈴木徹氏（㈱鈴木土建）より挨拶がありました。同友会「愛」のこもった二人の息びのメッセーじに、会場は笑顔に包まれました。

第22期経営指針を創る会オリエンテーション「経営指針」は自社経営発展のための羅針盤

5月16日(金) 同友会会議室・ZOOM

県経営労働委員会主催の経営指針を創る会（以下、創る会）のオリエンテーションを開催しました。創る会では約6カ月間をかけ、議論を交わしながら課題シートをもとに経営指針を確立していきます。今回のオリエンテーションでは受講希望者と修了生合わせ、36名が参加しました。

はじめに、2025年度から経営労働委員長に就任した宮田博文氏（㈱ミヤタ印刷・静岡支部）から「自社においても5月に代表を引き継ぎました。皆さんと共に学び自社の指針書を見直し実践に繋がっていきたいと思います」と挨拶がありました。続いて今期から創る会会長に就任した中村佐和子氏（㈱フラワースパークス・静岡支部）から趣旨説明があり本年度の進め方、参加する皆さんへのお願いを伝えました。

修了生からの報告では、小野壮俊氏（オノケン材塗装㈱・静岡支部）と作山知佐氏（㈱シゲタコーポレーション・沼津支部）が登場。小野氏は創る会受講前後の社員への想いの変化や指針成文化後の実践の経過を報告。作山氏は後継者として受講を決意したきっかけや、経営理念・経営指針に込めた想い、創る会の受講を通じて固まった経営者としての覚悟について参加者に伝えました。

最後に野川和三氏（㈱野川商店・榛南支



受講希望者と修了生合わせ36名が参加

部）から閉会挨拶で「2011年に第9期創る会を受講しました。迷っていたところを先輩会員に半ば強引に背中を押してもらったことがきっかけでしたが、その時に受講していなければ今の自社はないと思います。もし、迷っているのであればぜひ一歩踏み出して受講してください」と受講を検討している皆さんへメッセーじを送りました。

★第22期は6月14日（土）から開講し、11月まで開催します。第1期〜第21期の修了生の皆様、ご参加をお待ちしております。

6月 16日(月)	にじいろ共生委員会 (18:30 同友会事務局&ZOOM) 県共同求人委員会 (19:00 ZOOM)
17日(火)	見て・聞いて・話して学んで実践! 役員研修会 (13:00 レイアアップ御幸町ビル)
18日(水)	伊東例会 (19:00 HUBlic) 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ)
20日(金)	中遠・浜松合同例会 (19:00 アクトシティ浜松)
23日(月)	静岡財務事務所との意見交換会 (15:30 同友会事務局) 第5回フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM)
24日(火)	三島例会 (19:00 三島商工会議所) 第22期経営指針を創る会② (19:00 静岡駅周辺会議室) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
25日(水)	志太例会 (18:30 プラザおおり)
26日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 榛南例会 (19:00 牧之原市商工会)
27日(金)	景気動向調査記者発表 (11:00 静岡市葵区役所市政記者室)

30日(月)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM)
7月 1日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
3日(木)～ 4日(金)	第57回全国定時総会in神奈川 (13:00 パシフィコ横浜 会議センター)
8日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
9日(水)	御殿場支部設立40周年記念式典 (16:00 御殿場高原ホテル 時之栖)
10日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 伊東例会 (19:00 未定) 浜松例会 (19:00 浜松市市民協働センター)
11日(金)	第22期経営指針を創る会③ (19:00 静岡駅周辺会議室) 富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉会館)
15日(火)	県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



にじいろ共生委員会主催 中部地区関係機関との交流・意見交換会
障がい者の就労支援に大切なことはなにか
とともにビジョンを描く

5月23日(金) 同友会事務局会議室

にじいろ共生委員会(旧・障がい者問題委員会)主催の中部地区関係機関との交流・意見交換会を開催し、会員や特別支援学校、障がい者支援機関などの関係機関を含め24名が参加しました。にじいろ共生委員会では毎年、東部・中部・西部地区の3か所で開催機関との意見交換会を開催しています。

今回の意見交換会では元特別支援学校の教員である徳増五郎氏(株Build WORKS Lab 取締役)と鈴木一也氏(株千手 障がい者就労継続支援A型事業所シユクル・志太支部)に特別支援学校卒業後の就職率についてや障がい者就労支援サービスの取り組みを報告。徳増氏からは特別支援学校の教師を務めていた当時から振り返り、生徒の卒業後の就職先が少なく悩んでいたが、保護者や生徒の気持ちを汲んで取り組んできたことで、就職率が40%に上がることができたと話しました。鈴木氏からは、利用者の得意・不得意に合わせて作業を分担することで、本人の強みを生かせるようにしてきたこと、また「一般就労はゴールではないので、一般就労を通じて利用者の皆さんがよりよい人生を歩めるようにしていきたい」と想いを語りました。

その後、報告を受けて感じたこと、現在抱えている課題などをテーマにグループ討論を行いました。「働くとは何かを伝えることが成長に繋がる」、「進路決定では、保護者の意思が強いため生徒が夢を描きにくく、就職がゴールだと思っているが、本人に合う働き方、選択肢を伝えていくことが大事である」と意見が交わされました。

今回は7月に東部地区関係機関との交流・意見交換会を沼津市にて開催予定です。障がい者雇用をしている・していないに関わらず、障がい者や誰もが活躍できる企業づくりに向けた多くの気づきと学びを得られる機会です。ぜひご参加ください!